

急性期病院が推進する在宅医療連携

宗教法人 在日本南プレスビテリアンミッション

淀川キリスト教病院



淀川キリスト教病院

病床数：急性期病床 630床

平均在院日数：13.8日

地域医療支援病院

大阪府がん診療拠点病院

グループ施設

ホスピス・こどもホスピス病院

健康管理増進センター（人間ドック）

レディースクリニック（周産期医療）

老人保健施設

訪問看護ステーション

大阪市東淀川区

大阪市東淀川区の人口構成（2010年）

人口	176,585人（大阪市で2番目に多い）
高齢者人口	35,775人
高齢化率	20.5%（大阪市全体 22.7%）
高齢者世帯率	18.5%（大阪市全体 19.4%）

東淀川区の在宅資源

療養型病床（病床）	1（52）	訪問看護	9
診療所（内在支診）	133（14）	訪問介護	64
在宅訪問薬剤管理薬局	56	通所介護	29
歯科診療所（内在歯診）	81（9）	通所リハビリ	4
		居宅介護支援	52

2011年度までの取り組み

- 2008年～ 東淀川区医師会との意見交換会を開始
- 2010年～ 「東淀川区の在宅医療連携を考える会」
⇒ **病院として、在宅医療をサポート**

- ・在宅医療サポートチームの立ち上げ
- ・診診連携の調整
- ・衛生材料の小分け販売の調整
- ・バックベッドの確保
- ・メーリングリストでの在宅医募集

(2011年～ 「淀川区の在宅医療連携を考える会」)

多職種連携の課題に対する解決策の抽出

- 医師会と連携は取れているが、多職種協働には至っていない
- 病院スタッフは、在宅生活をイメージするのが難しい



急性期病院として
在宅医療連携の推進を
目指す！

1. 在宅医療連携に関するアンケート調査
2. 「東淀川区の在宅医療連携を考える会」でのグループワーク

ワーキンググループの活動内容

情報共有 システムづくり

- ケアマネからの入院時情報シートの統一
- 救急カプセルの運用を提案

在宅移行パス の作成

- 心不全の日常生活チェックリストを作成
- 今後、心不全パスを作成予定

地域住民への 普及啓発

- 市民公開講座での啓発
- 在宅医療に関するパンフレット作成

社会資源マップ の作成

- 医療・介護の担当者がネットで検索
- 関係機関の既存のHPへもリンク

その他の活動

電子カルテでの 情報共有化

- 在宅医が当院のカルテを閲覧できる
- Human Bridge(富士通)を利用

患者支援センターでの 在宅医療支援

- 看護師・MSWを配置
関係機関や住民からの相談窓口
- アウトリーチ

在宅医療に従事 する人材育成

- 東淀川区の在宅医療連携を考える
会での研修

成果

	2010年度	2011年度	2012年度 (～2月まで)
東淀川区の在宅医療連携を 考える会 参加者数	105 (年3回)	80 (年3回)	211 (年4回)
メーリングリストの在宅医募集件数	0	15	24
在宅医療サポートチーム介入件数	0	7	14
退院調整加算 算定数(年間)	1193	1413	2073
退院時共同指導料2 算定数	174	148	143
介護支援連携指導料 算定数	292	286	245

➤ 地域での初めての取り組み

- ・これまでHPN管理をしていなかった薬局が、新たに開始
- ・初めての訪問診療を開始
- ・複数の在宅医が、初めて在宅での看取りを経験

成果

➤ 病院スタッフの声

医師：「地域の人たちの声を聞いて、合意のもとに進めていかないと
いけないことがわかった」

看護師：「退院後の生き生きとした表情を見て、“入院”の影響の大きさを
感じた。自宅での患者さんの姿を、家族やケアマネさんからの
情報を共有して関わりたい。」

➤ 地域からの声

地域住民：「自分の老後、終末、生きかたをしっかりと考えたいと思った」

在宅医：「患者・家族・支援者の退院への不安は大きい。

病院のバックアップがあると心強い」

「在宅医療連携の良い骨格ができた。これからの継続が大切」

ケアマネジャー：「病院のスタッフが、在宅生活のために介護との連携を
考えてくれていることを知り、心強く思った」

まとめ

- 医師会との関係は、成長から成熟段階へ在宅医との親密度も増した
- 行政も巻き込んだ多職種連携が芽吹いた
- ケアマネジャーや地域包括支援センター、介護施設や介護福祉職との関係が深まった

